

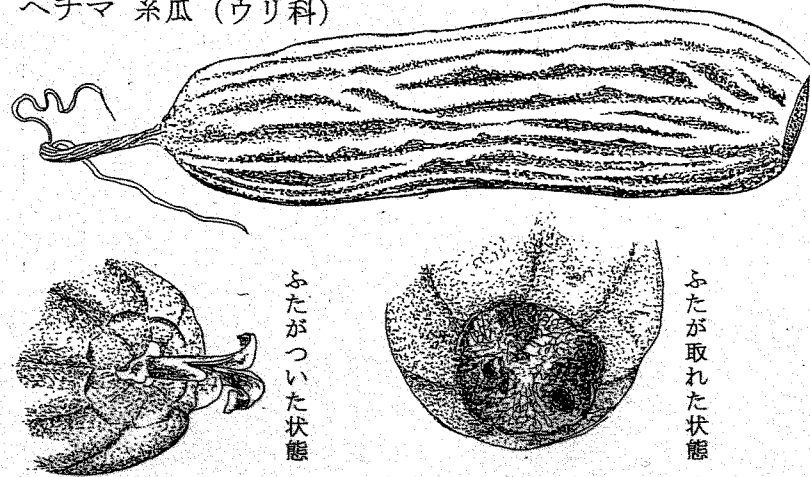
はり ま たん けん
播 磨 探 検

2018.1.29 280号
えん 赤松弘一

ヘチマ 糸瓜 (ウリ科)

実の長さ 23 cm

まてごのへちまの水も 取らざりき
正岡子規



ふたがついた状態

ふたが取れた状態

種子 13 mm

わかば学級の南の学習園には茶色く枯れたヘチマの実が風に揺れている。あの夏のざらざらした陽射しの下で網に絡んでざらついた葉を広げていたのが嘘のように、寒々とした風情である。よく見ると、実の先端がくりぬいたようにきれいに丸く穴になっていて、中の空洞や繊維に絡んだ種が見えている。他の実を確かめると、穴は開いていないが、すでに切り取り線のように丸く溝がついていて、もうすぐフタがとれて穴が開きそうである。以前、熟すると先端のふたがとれて、中の種子が果汁と共に勢いよく吹き出すウリの映像（鉄砲ウリと言うらしい）を見たことがあったが、ヘチマもブシューッと噴き出すのだろうかと思ひ、調べたが、どうもそうではないらしい。熟してツルにぶら下がったまま、水分が抜けて中が空洞になる頃に先端のふたがとれる。軽い実は風に揺られてぶらぶらと揺られて、穴から種子を周囲にまき散らすというのである。そんなに広範囲には広がりそうもないが…。ちなみにぶらぶらして役に立たない者をへちま野郎という。また、「夢もへちまもない」「だってもへちまもない」などという言い回しがあるが、いずれにしてもくだらないものたたとえになっているようだ。

ヘチマはそんなにくだらないものなのだろうか。熟した実を腐らせて、中から取り出したかたい繊維は昔からタワシとして使われてきた。私も小学生の時に家で栽培して実を採り、タワシをつくろうと池に浮かべて腐らせ、結局そのまま全部腐らせた記憶がある。またよく知られたものは「ヘチマ水」である。これはヘチマのツルを切って、根につながっている方の切り口をビン中に突っ込んでおくと、嘘のように透明な液体がたまるのである。これは化粧水になるというのでやってみたが、確かに水は溜まった。しかし使った記憶はない。このヘチマ水は咳止めにもなるという。また若い実は煮て食べたりするらしい。それほど用途があるのになぜ「夢もへちまもない」のだろうか。

ヘチマはインドが原産で、江戸時代に日本に持ち込まれたという。漢字では糸瓜と書き、「イトウリ」がなまって「トウリ」それをしゃれて、トは「いろは」でいうと「へ」と「ち」の間なのでヘチ間ということで「ヘチマ」というらしい。面倒くさいやつだ。

ヘチマと同じウリ科の仲間にはキュウリ、スイカ、ゴーヤなど食用に栽培されているものが多い。野生ではカラスウリ、キカラスウリが雑木林に、スズメウリ、アレチウリなどが河川敷などにみられる。すべてツル性の一年草である。

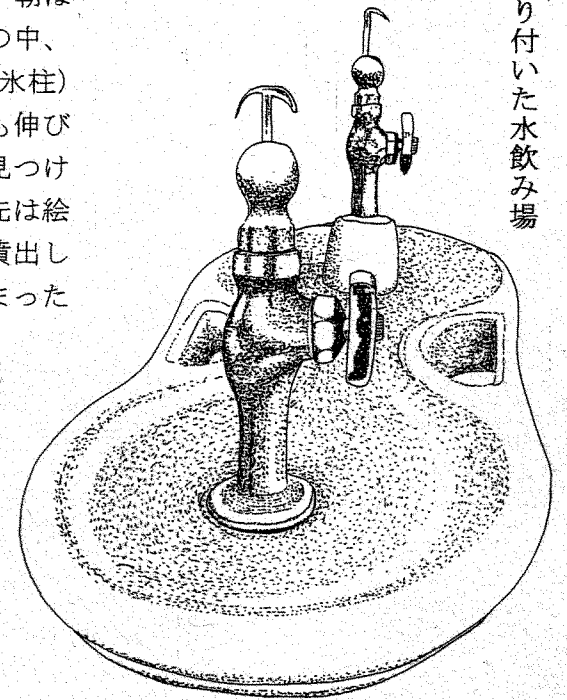
「止まった時間」～寒気団がつくったオブジェ～

1月12日、昨夜はよく晴れて放射冷却が起こり、朝はとても冷え込んだ。ピンと張りつめた冷たい空気の中、学校の玄関前の水飲み用の水道栓から氷のツララ(氷柱)がロウソクのようにまっすぐ上むきに3cmほども伸びているのに気付いた。12月にも4年生の女の子が見つめて教えてくれたことがあった。氷の細いツララの先は絵に描く噴水のように2つに分かれており、まるで噴出した水がそのまま凍ったかのように、一瞬時間が止まったかのような不思議な感覚になる。

さて、この逆つらら?はどのようにしてできるのか、私なりの推理を述べる。多くの物質は温度が上がると膨張し、反対に冷えると縮む。ところが水は4℃の時に最も体積が小さく、氷になると逆に体積が10%も大きくなるのである。夜間の冷え込みで、水道管の中の水が凍り始めると体積が増し、栓より上の部分の水が穴から押し出され、風に吹かれて流れ出ると外気に触れるとすぐに凍り始める、このようにして丸い飲み口の金属部分に沿って出てきた水が氷る。やがて管の中の水も凍り、さらに下の部分の水が凍った圧力で氷の柱がニュニュッと押し出されてくる。始めの飲み口の部分で凍った氷は噴水の形になってその先に乗ったまま……ということか?これを解き明かすには夜通しこの水道の出口を観察するしかないが、間違いなく健康を損なうと思うのでやらない。

この日の朝8時半には、校舎2階の北の窓の外でなんと氷点下1.9℃であった。普通、冬の朝の気温は地表付近が最も低いので、2階の高さでもマイナス1.9度ということは地表付近ではもっと気温は低かっただろう。翌13日は土曜日だったが、この日も朝は寒く、洗濯物を干したらすぐに凍ってしまった。15日の朝も寒く、再びこの氷の逆ツララが4つの水飲み用水道すべてに見られた。この日は厚くなった中庭の池の氷が昼間もほとんど解けなかった。夜のうちにまた更に厚さを増すだろう。

1月20日は大寒といい、一年で最も寒くなる頃である。寒いのはつらいが、水は0℃で凍るので、この時期、霜や氷や雪、ツララなど面白い現象がみられるのは楽しい。12日と15日は運動場に霜柱が立ち、陽が昇ってそれが解けたため運動場一面が霜解けのぬかるみになってしまい、体育の授業に影響したようだ。霜柱ができると、地中の水分をどんどん吸い上げて地表で凍らせるため、このような現象が起こるのだ。これを防ぐには融雪剤(塩化カルシウム)をまいて霜柱ができないようにすればよい。さっそくグランドに融雪剤と同じ効果があるにがり(塩化マグネシウム)をまいてもらうことにした。22日には南岸低気圧で東京は大雪になり、25日は大プールも半分が凍った。



凍り付いた水飲み場

